

統合に向け、心の距離がだんだん近くなる

校長 舘林 美和

来年度の神坂小学校との統合に向け、9月に児童にアンケートをとったところ、「楽しみ」「友達を増やしたい」等前向きな思いを持っている児童がたくさんいることが分かりました。しかし、少数ではありますが「どうなるのかな」「仲良くできるか心配」といった不安を抱えている児童もいました。学校が変わらない落合小学校でさえ不安な気持ちになるのですから、神坂小学校の児童や保護者の心配はもっと大きなものと察します。お互いに少しでも不安な気持ちが和らいでいくように、「分からないこと」を「分かる」ように、今できることを考えて取組を進めてきました。

ステップ1 7月には、オンラインで学年ごとに自己紹介をしました。画面越しではありましたが、名前や趣味などを聞いて、自分と似ているところがあることに気づき安心したり、相手の得意なことを聞いて関心をもったりすることができました。

ステップ2 11月には、朝の時間に交流会をしました。相手を知ることのできるゲーム(ex おへんじゲームや自己紹介すごろく等)やテーマ毎の対話など、学年に応じて考えて実施しました。グループの席や写真撮影時の場所など積極的に神坂小学校の児童に声をかけて案内したり、相手の話に笑顔で反応を返したりと落合小学校の児童の温かな気持ちを表した行動がたくさん見られた時間でした。その後、神坂小学校の児童は、授業参観と学校見学をして落合小学校の様子をつかんで帰りました。



ステップ3 12月には、「合同ひびきあい集会」を実施しました。風邪の流行によりオンラインの開催となってしまいましたが、それぞれの学校で取り組んできた人権教育に関する取組を発表しました。「言われてうれしい言葉とうれしい言葉を言われた時の気持ち」を、両校で確かめ合うことができました。大きな声で堂々と発表の様子を見て、その姿を褒め合う交流もできました。また、「ともだちになるために」の歌を同時に歌い、オンラインであっても同じ思いで歌うことができ、学校間の距離はあっても、心がつながっている感じがしました。



ステップ4 高学年では、風流踊りの引継ぎ会をオンラインで行いました。両校の5年生が最高学年に向けて、一緒に気持ちを高めていく機会でした。落合小学校にとっては伝統となっており「受け継いでいく」という気持ちの高まりはありますが、神坂小学校にとっては違います。それでも、6年生が風流踊りの取組を通して学んだ表現することや思いを伝えることの大切さや難しさ、そして自分の成長に気付けたことなどを聞き、目指す6年生像が少しずつ形になってきたのではないかと思います。来年、どんなリーダーになっていくのか楽しみにになりました。

全校で日常的に取り組んでいる「いいね見つけ」は、相手をしっかりと見て、相手を受け入れる心の器を大きくするものだと考えます。人の出会いは、いつでもどんな場でもあります。日々の仲間との関わりの中でも統合に対する不安を解消する手立てがあります。春に向かって、出会いを恐れず楽しみに変えられるよう、仲間との関わり方や心の耕しを今後も続けていきたいと思います。

年末年始、家族とのふれあいを大切に、心があったかい冬をお過ごしください。

冬休みは、一年の終わりと始まりの節目のある休みです。大掃除や年始の行事など、家族と一緒に活動して心が通い合う時間をたっぷりと取っていただきたいと思います。お忙しい日々ではありますが、新年を迎えるひと時は、互いの健康や成長を確認し、新たな夢や希望を語り合えるといいですね。

よいお年をお迎えください。